仙台塩釜港 長期構想2026（最終案）【概要版】

～仙台塩釜港の将来像と中長期ビジョン～

1.仙台塩釜港の将来像

＜これからの社会における港湾の役割＞

仙台塩釜港は、東北地域を代表する国際物流拠点であり、完成自動車や原油、水産品、セメント、木材チップ、ゴム製品（タイヤ）など多様な貨物を取り扱っています。東北で取り扱われている貨物の約3割を仙台塩釜港が占めており、国際フィーダーコンテナの取扱量は国内トップクラス（国内第2位 ※2024年速報値ベース）となっています。仙台塩釜港は、企業活動を支える物流拠点としてだけでなく、地域の産業や人々の暮らしを支える生活基盤でもあります。

＜仙台塩釜港の将来像＞

国際的なサプライチェーンの変化や脱炭素社会実現に向けた動き及び働き方改革に起因したモーダルシフトの進展といった港湾を取り巻く状況が大きく変化しています。

このことを踏まえ、今後の仙台塩釜港の目指すべきあり方を検討するため、学識経験者や港湾関係者等を構成員とする「明日の仙台塩釜港を考える懇談会」を令和4年5月に設置し、意見交換を行い、令和6年3月に概ね30～50年先を目標期間とした「仙台塩釜港の将来像・目指すべき方向性」をとりまとめました。

～将来像～

宮城・東北の経済をけん引し、にぎわいと活気にあふれ、自然と共生する強靭な仙台塩釜港



＜目指すべき方向性＞

1）宮城・東北の経済をけん引する港湾
2）災害に強い強靭な港湾
3）自然環境と共存する港湾
4）にぎわいと活気にあふれる港湾

2.将来像実現に向けた基本戦略

全体コンセプト

仙台塩釜港の全体最適化により、
あらゆるニーズに応える「総合港湾」へ

4港区が持つそれぞれの強みを最大限に生かしながら、港区毎の機能強化に留まらず、ハード・ソフトの両面において連携・補完し合えるよう機能の再編と再構築を図ることで、総合港湾として最適で最高な港湾サービスを提供し、多様化する港湾ニーズへ的確に対応していく。

◆ 港湾の果たすべき使命・ニーズが多様化

◆ 限られた港湾空間の有効利用・最適化

◆ 持続可能で安全・安心、強靭な港湾の形成

あらゆる港湾ニーズに対して、**4港区が機能を連携・補完**しながら、**総合的に対応**していく必要

各港区が機能を補完し合う**「総合港湾」**へ

4つの戦略

戦略1（物流戦略）
宮城・東北の産業と経済を支え、グローバルサプライチェーンに貢献する最高の港湾物流サービスの提供

・東北の国際・国内物流拠点として地域経済の成長をけん引する最高の港湾サービスの提供
・戦略的ポートセールスの展開

戦略2（防災・施設維持戦略）
BCPが充実した安全・安心で強靭な広域海上防災拠点を構築

・災害に強く強靭な広域防災拠点港湾を目指す
・総合的な対応により、安全・安心な港湾を目指す

戦略3（環境戦略）
自然環境と共生し、脱炭素社会の実現をけん引するカーボンニュートラルポートを形成

・官民連携による港湾脱炭素化の取組を計画的に推進
・自然環境の保全・共生を図り、ブルーカーボンの導入も含めた取組を推進

戦略4（観光・交流戦略）
地域の賑わいを創出する東北の広域観光ゲートウェイを形成

・広域観光振興に貢献するゲートウェイ港湾を目指す
・各港区・地域ならではの魅力ある目的地づくりを推進

仙台塩釜港 長期構想2026（最終案）【概要版】

～仙台塩釜港の将来像と中長期ビジョン～

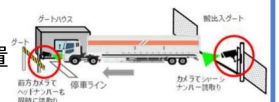
3.将来像を実現するための主要施策

戦略1（物流戦略）
宮城・東北の産業と経済を支え、グローバルサプライチェーンに貢献する最高の港湾物流サービスの提供

主要施策 1 グローバルゲートウェイとして最高のコンテナ物流を実現
①需要増加を見据えたターミナルの拡張と利用効率化・高度化に向けた機能再編
②ターミナルの省力化・効率化、利便性の向上に向けたデジタル化やAIの導入を推進
③多様な貨物需要に対し安定的な輸送を実現・提供する国際海上輸送網の拡充・強化



主要施策 2 国内長距離輸送を支えるユニットロードターミナルの機能強化
①フェリー・ROROターミナルの利用高度化や利便性向上の推進
②貨物の搬出入やターミナル内移動の円滑化・効率化に向けた施設の再配置
③ユニットロード・バルク貨物の混在による輻輳解消と将来の輸送力不足を補う港区間連携の推進と機能強化



主要施策 3 臨海部産業の持続的発展を支えるバルク港湾機能の強化
①大型貨物船の安全・安心かつ安定的な利用に資する港湾機能の強化
②ユニットロード・バルク貨物の混在による輻輳解消に向けた港区間連携の推進と機能強化（一部再掲）
③立地企業の動向を踏まえ新たな産業誘致も見据えた工業用地の戦略的な造成

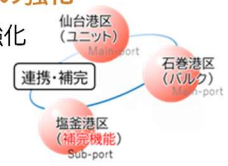


主要施策 4 仙台塩釜港の持続的成長を支える集貨・創貨の促進と港湾人材の確保
①仙台塩釜港の国際競争力と総合力を活かした戦略的なポートセールスの展開
②DXによるヒトの支援に加え、多様な人材が活躍出来る職場環境づくりとその魅力発信

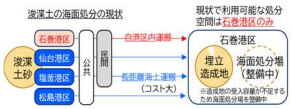


戦略2（防災・施設維持戦略）
BCPが充実した安全・安心で強靭な広域海上防災拠点を構築

主要施策 1 サプライチェーン維持と海上防災支援を担う拠点機能の強化
①耐震強化岸壁等の適切な配置と背後の緊急輸送ネットワークへのアクセス強化
②応急作業や緊急物資輸送の基地となる十分な空間の確保
③海上保安基地として巡視船艇を適切に収容可能な空間の確保
④港区間や他圏域の被災港湾バックアップを見据えた港湾機能の強化



主要施策 2 持続可能で強靭な港湾の形成に向けた施設の計画的メンテナンスの推進
①被災後の早期機能回復に資する港湾施設の計画的な維持管理の推進
②航路・泊地機能を適切に維持するための浚渫土砂海面処分場の確保



主要施策 3 県内外の広域的な支援体制の構築と港湾BCPの充実強化
①あらゆる危機的事象を想定した港湾BCPの整備・拡充と実効性確保の取組推進
②離島・半島地域を含む広域の海上防災支援を見据えた連携体制の構築
③首都圏など東北圏域を超えた物流機能の広域支援体制の構築
④将来の気候変動を見据えたふ頭のリスク評価と官民連携体制の構築（協働防護）



戦略3（環境戦略）
自然環境と共生し、脱炭素社会の実現をけん引するカーボンニュートラルポートを形成

主要施策 1 国際拠点港湾としての社会的役割を踏まえた脱炭素化の着実な推進
①港湾エリアで活動する多様な主体が連携した脱炭素化の取組推進
②日本の競争力強化に資する国内認証の取得
③水素・アンモニア等の次世代エネルギーの需要・供給を見据えた環境整備

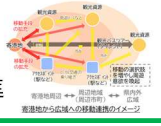


主要施策 2 自然環境の保全と共生に向けた取組の推進
①自然環境や生態系へ配慮し、景観と調和した水辺空間の形成
②自然環境との適切な共生に向けた環境負荷の低い港湾開発・利用の推進



戦略4（観光・交流戦略）
地域の賑わいを創出する東北の広域観光ゲートウェイを形成

主要施策 1 各港区の連携・補完によるクルーズ船、インバウンドの受け入れ体制の強化
①需要増大が見込まれる中・小型クルーズ船への対応力の強化
②寄港地から日本三景「松島」への海上ルートの活用促進
③クルーズ船寄港地から周辺地域間、広域圏への円滑な二次交通の連携・確保を推進



主要施策 2 地域の賑わい拠点となるウォーターフロントの形成と魅力ある観光目的地づくりの推進
①みなとオアシスの活性化と港湾エリアの観光・交流拠点機能の強化
②各港区や地域の特性を生かした魅力ある観光資源の創出と活用の推進
③観光客のみならず、地域住民や港湾労働者にも親しまれる快適な港湾空間の整備



主要施策 3 地域の実情を踏まえた適切なマリンレジャーの推進
①放置艇ゼロに向けた安全なマリーナ等の係留場所の確保を推進
②自然環境や景観と調和した海洋性レクリエーションの促進
③地域住民や他の港湾利用にも配慮した適切なマリンレジャー環境の構築



仙台塩釜港 長期構想2026（最終案）【概要版】

～仙台塩釜港の将来像と中長期ビジョン～

4. 長期的な空間利用方針（ゾーニング）

【仙台塩釜港のゾーニングの基本方針】

○ 仙台塩釜港に対する多くの要請を「総合港湾」として一元的に受け止め、全体的に空間利用の効率化を図る。

○ 具体の機能配置においては、現有機能を十分考慮するほか、「総合港湾」における連携・補完の考え方に基づき、既存ストックを最大限に活用するとともに、新たに必要となる空間利用（開発）を展開する。

○ なお、長期的な需要見通しや利用状況を踏まえ、交流拠点ゾーン、緑地レクリエーションゾーン、船だまり関連ゾーンなど一部の配置を見直し、引き続き、周辺環境への配慮や賑わいの創出等に留意する。

ゾーニングの基本的な分類

分類	凡例	利用の内容
物流関連ゾーン		物流ターミナルとして利用するふ頭用地、倉庫用地等
生産ゾーン		港湾に関連した生産・加工工場等の敷地、そのための専用ふ頭
エネルギー関連ゾーン		石油、ガス等危険物を取り扱う用地、そのための係留施設等
船だまり関連ゾーン		作業船、ポートサービス船、観光庁船、漁船等を係留する空間
交流拠点ゾーン		観光やイベントなど、港湾を通じた国内外の様々な交流活動を推進するエリアや施設用地
緑地レクリエーションゾーン		海洋性レクリエーションのための海浜やマリーナ、港湾関係者や地域住民が利用する緑地等
環境保全ゾーン		自然環境や景観の保全・再生を図る空間
将来構想		将来の港湾需要に応じて、開発・利用を図る空間

仙台港区



機能区分		機能配置（空間利用）の考え方
物流関連ゾーン	【中野地区（雷神埠頭～高松埠頭の公共埠頭とその背後）】	・現有機能である物流関連ゾーンに位置づける ・ユニットロード・バルク貨物の混在による輻輳解消に向け、施設の再配置を図る
	【向洋地区】	・現有機能である物流関連ゾーンに位置づける ・更なる貨物増加に対応するため、南防波堤沿いの沖合に展開を図る
生産ゾーン	【中野南地区】	・今後とも生産ゾーンとして機能を維持する
エネルギー関連ゾーン	【栄地区】	・宮城・東北の生産活動や市民生活を支えるエネルギー関連ゾーンとして機能を維持する
交流拠点ゾーン	【中野地区（西エリア）】	・今後とも交流拠点ゾーンとして機能を維持する
緑地レクリエーションゾーン	【向洋地区】	・海洋性レクリエーションなど、人々が憩い休息できる場として、海浜の維持及び利便性の向上を図る
環境保全ゾーン	【蒲生干潟】 【湊浜地区】	・蒲生干潟及び周辺地区は、自然環境保全ゾーンに位置づけ、その環境保全に努めていく

塩釜港区



機能区分		機能配置（空間利用）の考え方
物流関連ゾーン	【貞山地区・港貞山地区】	・現有機能である物流関連ゾーンに位置づける ・物流ニーズを踏まえ、適正なバース規模を確保する
	【東宮地区】	・現有機能である物流関連ゾーンに位置づける
生産ゾーン	【港地区・東宮地区】	・今後とも生産ゾーンとして機能を維持する
エネルギー関連ゾーン	【一本松地区・代ケ崎地区】	・一本松地区の危険物取扱用地、代ケ崎地区の工業用地は、仙台都市圏の生産活動や市民生活を支えるエネルギー関連ゾーンとして機能を維持する
船だまり関連ゾーン	【港貞山地区】	・海上保安基地として巡視船・巡視艇及びポートサービス船等の集約を図る船だまり関連ゾーンに位置づける
	【東宮地区・代ケ崎地区】	・現有機能どおり漁船等を中心とした船だまり関連ゾーンに位置付ける
交流拠点ゾーン	【港地区】	・港奥部の観光桟橋周辺の空間は観光客のみならず、地域住民にも親しまれる快適な港湾空間を形成し、みなとまち塩釜の活性化に貢献する交流拠点ゾーンに位置づける
緑地レクリエーションゾーン	【港地区】	・環境と景観に配慮した水辺空間の整備を促進する緑地レクリエーションゾーンに位置づける
	【中の島地区】	・歴史遺産の貞山運河を活かしたプレジャーボート収容機能を維持する
環境保全ゾーン	・特別名勝松島保護区を自然環境保全ゾーンに位置づけ、みなとまち塩釜の活性化に貢献する場として、その利用を促進していく	

仙台塩釜港 長期構想2026（最終案）【概要版】

～仙台塩釜港の将来像と中長期ビジョン～

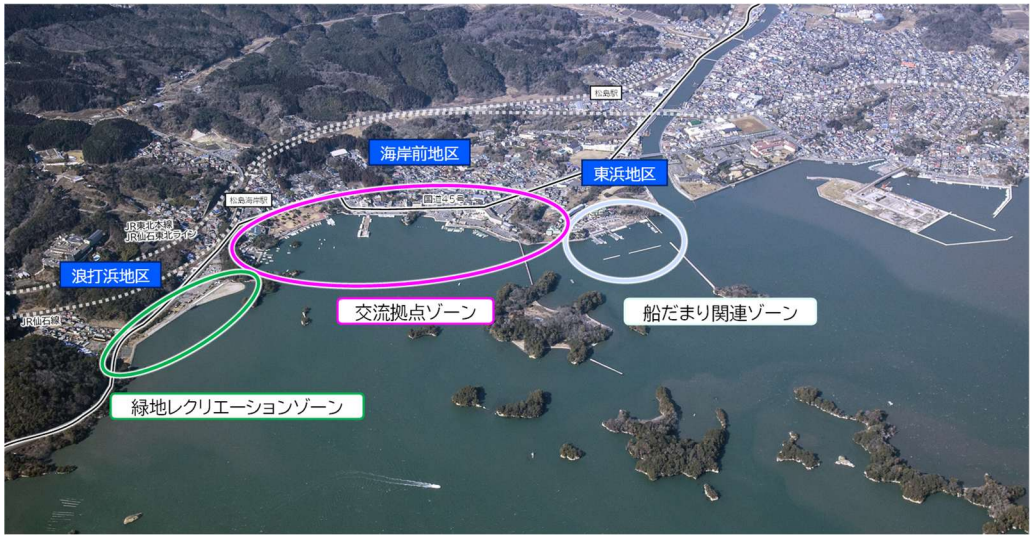
4. 長期的な空間利用方針（ゾーニング）

石巻港区



機能区分		機能配置（空間利用）の考え方
物流関連ゾーン	【雲雀野地区】	・大型バルク船に対応した物流関連ゾーンに位置づける
	【釜地区】	・現有機能を維持する物流関連ゾーンに位置づける
生産ゾーン	【釜地区（東エリア）】	・木材関連・飼料関連等の企業が立地しており、地域の生産拠点として、今後も生産ゾーンに位置づける
	【釜地区（西エリア）】	・木材・木製品関連や鉄鋼・金属製品関連企業が立地しており、地域の生産拠点として、今後も生産ゾーンに位置づける
	【雲雀野地区】	・既存企業の生産活動の拡大、新規企業誘致に対応する生産ゾーンに位置づける
船だまり関連ゾーン	【釜地区】	・水面貯木場を転用し、作業船等を収容する船だまり関連ゾーンに位置づける
	【大曲地区】	・既存の漁船施設を維持するとともに、新たにプレジャーボート等の収容を図る船だまりゾーンに位置づける
交流拠点ゾーン	【内港地区】	・既存機能と連携した交流拠点ゾーンに位置づける
緑地レクリエーションゾーン	【雲雀野地区（東エリア）】	・水際線の開放による親水空間として利用する緑地レクリエーションゾーンに位置づける
	【雲雀野地区（西エリア）】	・耐震強化岸壁と連携して広域防災拠点を形成する緑地レクリエーションゾーンに位置づける

松島港区



機能区分		機能配置（空間利用）の考え方
船だまり関連ゾーン	【東浜地区】	・漁船等を中心とした既存の船だまりを維持する船だまりゾーンに位置づける
交流拠点ゾーン	【海岸前地区】	・松島観光クルーズの基地として、機能強化を図る交流拠点ゾーンに位置づける
緑地レクリエーションゾーン	【浪打浜地区】	・既存緑地を維持する緑地レクリエーションゾーンに位置づける

ゾーニングの基本的な分類

分類	凡例	利用の内容
物流関連ゾーン		物流ターミナルとして利用するふ頭用地、倉庫用地等
生産ゾーン		港湾に関連した生産・加工工場等の敷地、そのための専用ふ頭
エネルギー関連ゾーン		石油、ガス等危険物を取り扱う用地、そのための係留施設等
船だまり関連ゾーン		作業船、ボートサービス船、観光庁船、漁船等を係留する空間
交流拠点ゾーン		観光やイベントなど、港湾を通じた国内外の様々な交流活動を推進するエリアや施設用地
緑地レクリエーションゾーン		海洋性レクリエーションのための海浜やマリーナ、港湾関係者や地域住民が利用する緑地等
環境保全ゾーン		自然環境や景観の保全・再生を図る空間
将来構想		将来の港湾需要に応じて、開発・利用を図る空間

仙台塩釜港 長期構想2026（最終案）【概要版】

～仙台塩釜港の将来像と中長期ビジョン～

5. 長期構想の実現に向けて

「物流戦略」、「防災・施設維持戦略」、「環境戦略」、「観光・交流戦略」の4つの戦略の主要施策ごとに、短中期は港湾計画の計画期間である概ね15年程度先、長期は港湾計画の計画期間を超える20～30年程度先として、取組時期を以下のとおり想定しました。これら施策については、今後の社会情勢の変化も踏まえ柔軟に展開していくものとします。

戦略	主要施策	港区	短中期	長期
戦略1（物流戦略）	(1)グローバルゲートウェイとして最高のコンテナ物流を実現	仙台	→	
	(2)国内長距離輸送を支えるユニットロードターミナルの機能強化	仙台 塩釜	→	
	(3)臨海部産業の持続的発展を支えるバルク港湾機能の強化	仙台 塩釜 石巻	→	
	(4)仙台塩釜港の持続的成長を支える集貨・創貨の促進と港湾人材の確保	仙台 塩釜 石巻	→	→
戦略2（防災・施設維持戦略）	(1)サプライチェーン維持と海上防災支援を担う拠点機能の強化	仙台 塩釜 石巻	→	
	(2)持続可能で強靭な港湾の形成に向けた施設の計画的メンテナンスの推進	仙台 塩釜 石巻 松島	→	
	(3)県内外の広域的な支援体制の構築と港湾BCPの充実強化	仙台 塩釜 石巻 松島	→	→
戦略3（環境戦略）	(1)国際拠点港湾としての社会的役割を踏まえた脱炭素化の着実な推進	仙台 塩釜 石巻 松島	→	→
	(2)自然環境の保全と共生に向けた取組の推進	仙台 塩釜 石巻 松島	→	→
戦略4（観光・交流戦略）	(1)各港区の連携・補完によるクルーズ船、インバウンドの受け入れ体制の強化	仙台 塩釜 石巻 松島	→	
	(2)地域の賑わい拠点となるウォータフロントの形成と魅力ある観光目的地づくりの推進	仙台 塩釜 石巻 松島	→	→
	(3)地域の実情を踏まえた適切なマリンレジャーの推進	仙台 塩釜 石巻 松島	→	→

仙台塩釜港 長期構想2026（最終案）【概要版】

～仙台塩釜港の将来像と中長期ビジョン～

【参考】 仙台塩釜港の課題

仙台塩釜港が受け止めるべき

12の課題

物流	課題① コンテナターミナルの取扱機能の効率化・拡充に向けた取組
	課題② ユニットロード貨物・バルク貨物取扱機能の効率化・拡充に向けた取組
	課題③ 労働力不足に対応する業務効率化・生産性向上への取組
防災・維持	課題④ 国際戦略港湾の支援も視野に入れた広域的な防災港湾の体制強化
	課題⑤ 海面処分用地の確保検討
	課題⑥ 港湾施設の老朽化進行への対応
	課題⑦ 災害時における船舶と海路（輸送拠点・避難など）の活用
環境	課題⑧ 温室効果ガス削減に向けたカーボンニュートラルポートへの取組
	課題⑨ 海域環境の保全
観光・交流	課題⑩ クルーズ船受入環境とインバウンドの促進
	課題⑪ マリンレジャーの適正な推進
	課題⑫ 人流増加に向けた目的地づくりの推進

出典：「明日の仙台塩釜港を考える懇談会 報告書」令和6年3月

仙台港区

コンテナ・ユニットロードの物流機能強化・効率化、バース・ヤード不足への対応、大型クルーズ需要への対応



※課題番号は「明日の仙台塩釜港を考える懇談会」で整理した12の課題に対応している。

塩釜港区

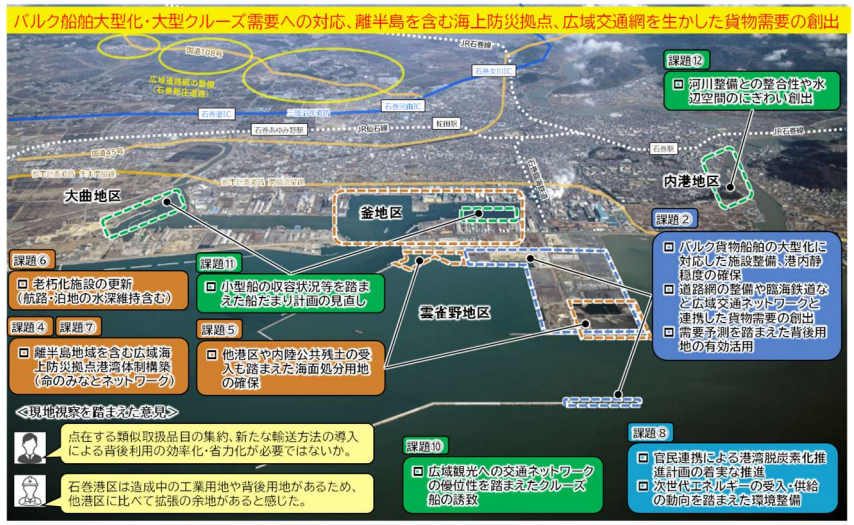
仙台港区の補完機能、海上保安基地機能の確保、中・小型クルーズ対応、港奥部の賑わい空間



※課題番号は「明日の仙台塩釜港を考える懇談会」で整理した12の課題に対応している。

石巻港区

バルク船舶大型化・大型クルーズ需要への対応、離半島を含む海上防災拠点、広域交通網を生かした貨物需要の創出



※課題番号は「明日の仙台塩釜港を考える懇談会」で整理した12の課題に対応している。

松島港区

インバウンド・クルーズ誘客に向けた各港区、背後圏との連携、快適な観光サービスの提供、特別名勝の適切な保全



※課題番号は「明日の仙台塩釜港を考える懇談会」で整理した12の課題に対応している。